

令和 6 年 5 月 11 日現在

機関番号：24405

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K00501

研究課題名（和文）ジェンダーの視点から見た19世紀フランス文学とモード、美術との相関性

研究課題名（英文）Correlation between the 19th French Literature, the Mode, and the Art from the viewpoint of the genere

研究代表者

村田 京子（Murata, Kyoko）

大阪公立大学・大学院現代システム科学研究科 ・客員研究員

研究者番号：60229987

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：ロマン主義文学（スタール夫人、バルザック、ジョルジュ・サンド）から自然主義文学（エドモン・ド・ゴンクール、ゾラ）まで、19世紀フランス文学を、関連する美術作品だけではなく、服装やモードを通して、社会的・歴史的・文化的観点およびジェンダーの視点から分析した。とりわけ、服装が文学作品において職業・身分・習慣・性格を表す記号として大きな役割を果たしていることを明らかにすると同時に、文学とモード史との深い関わりを浮き彫りにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、フランス文学作品をモード、美術と関連づけながらジェンダーの視点から分析したもので、美術や服飾史の領域ともリンクさせた領域横断的な研究であることに、学術的意義が見出せる。また、服装の問題は19世紀フランスに留まらず、現代の日本にも深く関わるテーマで、本研究を通してこうした問題を考えるきっかけとなることに、社会的意義が見出せる。

研究成果の概要（英文）：I analyzed deeply the 19th Century French Literature, from Romanticism (Madame de Stael, Balzac, and George Sand) to Naturalism (Edmond de Goncourt et Zola), associating it closely not only with artworks, but also with the mode and the clothing, from the social-historical-cultural viewpoint and that of the gender. Above all, I made clear the important role of the clothing as a sign of profession, social status, custom, and personality. I also revealed the close relationship between Literature and History of fashion.

研究分野：フランス文学

キーワード：19世紀フランス文学 ジェンダー モード 絵画

1. 研究開始当初の背景

本研究者は、2011年度～2014年度基盤研究(C)研究課題「ジェンダーの視点から見たフランス・ロマン主義と絵画の相関性」、2016年度～2019年度基盤研究(C)研究課題「ジェンダーの視点から見た19世紀フランス文学と造形芸術の相関性」において、19世紀フランス文学で言及される絵画・彫像と登場人物の相関性、および小説美学との関連、女性作家の画家像と男性作家と画家像の相違点、19世紀の女性画家の作品と生涯、さらに芸術小説における男性画家と女性モデルとの関係をジェンダーの視点から分析した。

研究成果の一部を本にまとめて出版したのが『ロマン主義文学と絵画 19世紀「文学的画家」たちの挑戦』(新評論、2015年)および『イメージで読み解くフランス文学 近代小説とジェンダー』(水声社、2019年)である。

本研究は、以上のような研究成果を発展させる形で、特にモード、およびモードに関連する絵画など視覚芸術に焦点を当て、19世紀フランス文学との相互作用を考察することを目的とした。

2. 研究の目的

19世紀フランス文学とモード、および当時のモードやジェンダー観を反映した美術作品との相関性を、小説構造や小説美学と密接に関連させてジェンダーの視点から分析する。

3. 研究の方法

服飾史、美術史に関連する文献、および19世紀当時のモード雑誌の図版や小説の挿絵、同時期のモードを反映した絵画などを参照しながら、以下の方法で研究を行った。

1. 文学作品における服装描写に焦点を当て、当時の「女らしさ」「男らしさ」の規範と照らし合わせて考察する。また、服飾用語が小説の中でどのように使われているのかを探る。

2. 女性作家と男性作家における服装描写に関して、共通点および相違点をジェンダーの視点から考察する。

3. ゴッホやゴッコンの作品に関しては、ロココ美術やアカデミー絵画、印象派の絵画などに関する彼らの美術評も考慮に入れながら、モードとの関連を検証する。

4. 研究成果

(1) 2020年度の研究成果

ジョルジュ・サンドの作品研究：サンドの『アンディヤナ』(1832)を取り上げ、主に女性登場人物(アンディヤナと彼女の身分的存在ヌン)に焦点を当て、服装との関係をジェンダーの視点から探った。その結果、二人の服装がそれぞれ、身分・職業・気質を表す指標として機能していること、さらに二人の変装は、互いの特質を自らに取り込むためであったことが明らかになった。また、「アマゾン」(女性用乗馬服)の着用は、従来の「女らしさ」の範疇を越えた力の発揮をもたらした、女性としての自立を象徴するものであった。

エドモン・ド・ゴンクール作品研究：ゴンクールの『シェリ』(1884)を取り上げ、女主人公の成長過程を、服装を手がかりに辿った。服装は、シェリの人生の要の時期を物語るのに不可欠な要素であると同時に、「第二帝政期の社交界の若い娘」の着る衣装として、当時の歴史的・社会的・道徳的側面を反映していた。さらに、服装はシェリの「分身」として機能し、彼女の気質や精神状態を表す鏡ともなっていた。また、モードは「芸術」となり、仕立屋が「芸術家」とみなされるようになったこと、服を着る女性は仕立屋の「芸術家の視線」によって「美術品」と化し、女の肉体のモノ化が生じていることが明らかになった。小説の後半ではシェリ自身が「芸術家」に変貌し、モードの「創造者」になるが、「子どもを産む性」としての女の特徴が露わになった時、その創造性は失われ、女の身体の物質性、獣性がクローズアップされるようになる。そこにゴンクールの女嫌いの思想が見出せる。

(2) 2021年度の研究成果

バルザック『幻滅』(1843)の研究：19世紀当時の服装のモードや、バルザック自身のエレガンスの概念を軸に、登場人物の服装を通して物語を読み解いた。まず、パリと地方の対比のもと、地方貴族の服がパリのエレガンスといかにかけ離れているか、その奇妙さと滑稽さを浮き彫りにした。次に、地方の貴族女性がエレガントなパリ女性に変貌していく過程を辿り、エレガンスの本質を考察した。最後に、地方の青年がパリでダンディに変貌していく過程を、その服装の変化を通して分析し、彼の社会的挫折の原因を探ると同時に、バルザックのダンディ像を明らかにした。

バルザック『骨董室』(1838)『カディニャン公妃の秘密』(1839)の研究：『人間喜劇』において「モードの女王」として君臨するモーフリニューズ公爵夫人(後のカディニャン公妃)が「服装の記号学」を駆使して、自分のなりたい女性にどのように変貌していくのかを探った。それと同時に、彼女が服装という「無言の言語」だけではなく、言葉そのものを駆使して「新しい自己」を創造していく過程を検証した。

「19世紀フランスとジェンダー」というタイトルで、京大仏文総会で特別講演を行い、19世紀フランス文学(バルザック、サンド、ゾラの作品など)を絵画やファッションプレートを参照しながら、モード史やジェンダーの視点から分析した研究成果を発表した。

(3) 2022年度の研究結果

スタール夫人の作品研究: 2021年9月に日仏会館で開催されたシンポジウム「文学作品に現れたフランス革命」において口頭発表した。その発表原稿に基づいた論文集『作家たちのフランス革命』(白水社)が2022年7月に刊行された。その中で筆者は「スタール夫人はなぜ、ナポレオンの怒りを買ったのか」スタール夫人『デルフィーヌ』『コリンヌ』というタイトルの論考を掲載し、古代の巫女シビュラの衣装を着て、古代の二輪馬車に乗って登場するコリンヌの姿が、当時のナポレオン(古代ローマ皇帝アウグストゥスに喩えられる)への密かな批判、さらにはナポレオンへの挑発になっていることを明らかにした。

国際女性デー(2023) 記念シンポジウムの共催(ゾラの作品研究): 2023年3月に日仏会館で開催された国際シンポジウム「女性と表象: 服飾、モード、ジェンダー」を、日仏女性研究学会との共催で開催した。筆者もそこで「ゾラ『ボヌール・デ・ダム百貨店』における「女性の搾取」

頭の無いマネキン人形」というタイトルで口頭発表を行った。デパートは19世紀後半の大量消費社会の出現によって誕生するが、デパートを取り上げたゾラの作品では、デパートが女性客たちの服飾品への購買欲をいかに掻き立てていったのかを探り、「頭の無いマネキン人形」をキーワードに、「女性の搾取」の過程を検証した。

(4) 2023年度の研究結果

バルザックの作品研究: バルザックの『ふくろう党』(1829)における服装と革命の関わりを分析した研究成果をフランス語論文にまとめ、フランスの論文集に掲載した。

『モードで読み解くフランス文学』の出版: 4年間の研究成果を本にまとめ、水声社から2023年11月に出版した。その内容は以下の通り。

第1章「フランス革命とモード」バルザック『ふくろう党』、第2章「変装する女性」ジョルジュ・サンド『アンディヤナ』、第3章「ダンディへの変貌」バルザック『幻滅』、第4章「『人間喜劇』における「モードの女王」」バルザック『骨董室』『カディニャン公妃の秘密』、第5章「第二帝政期の社交界の若い娘」エドモン・ド・ゴンクール『シエリ』、第6章「デパートによる「女性の搾取」」ゾラ『ボヌール・デ・ダム百貨店』

こうした分析を通して、19世紀前半のフランスでは貴族階級の上品な女性がエレガンスの規範となっていたが、後半になるとブルジョワ階級の女性が「モードの女王」となり、贅沢で派手なモードを推進し、最後にはデパートが女性たちを消費に駆り立てると同時に、モードの主体となっていったことを明らかにした。それによって、時代とともに移り変わるモードを同時代の作家がどのように捉えていたのかを把握できた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 8件）

1. 著者名 Kyoko Murata	4. 巻 23
2. 論文標題 Comment Delacroix a "collabore" a la creation de Balzac	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 L'Annee balzacienne 2022	6. 最初と最後の頁 37-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Murata Kyoko	4. 巻 21
2. 論文標題 The theme of femicide in 19th century French literature	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Criminocorpus, revue hypermedia	6. 最初と最後の頁 1-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4000/criminocorpus.12300	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 村田京子	4. 巻 21
2. 論文標題 19世紀フランス文学におけるフェミサイドのテーマ	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Criminocorpus, revue hypermedia	6. 最初と最後の頁 1-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4000/criminocorpus.12450	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 村田京子	4. 巻 30
2. 論文標題 『人間喜劇』における「モードの女王」 モーフリニューズ公爵夫人 (カディニャン公妃)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 女性学研究	6. 最初と最後の頁 27-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 村田京子	4. 巻 29
2. 論文標題 服装を通して読み解くバルザックの『幻滅』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 女性学研究	6. 最初と最後の頁 47-86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 村田京子	4. 巻 52
2. 論文標題 19世紀フランス文学とジェンダー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 仏文研究	6. 最初と最後の頁 113-137
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 村田京子	4. 巻 16
2. 論文標題 服装を通して読み解くゴンクール『シェリ』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 人間科学：大阪府立大学紀要	6. 最初と最後の頁 3-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 村田京子	4. 巻 28
2. 論文標題 服装を通して読み解く『アンディヤナ』の物語	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 女性学研究	6. 最初と最後の頁 1-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 村田京子	4. 巻 41
2. 論文標題 ゾラの『ボヌール・デ・ダム百貨店』における「女性の搾取」 「頭のないマネキン人形」	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 女性空間	6. 最初と最後の頁 8-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kyoko Murata	4. 巻 1
2. 論文標題 Les Chouans de Balzac : revolution, mode et genre	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Melanges pour Gerard Gengembre	6. 最初と最後の頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計12件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 2件)

1. 発表者名 村田京子
2. 発表標題 スタール夫人はなぜ、ナポレオンの怒りを買ったのか
3. 学会等名 第114回関西バルザック研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kyoko Murata
2. 発表標題 Le theme du feminicide dans la litterature francaise au XIXe siecle
3. 学会等名 日本フランス語フランス文学会秋季大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 村田京子
2. 発表標題 19世紀フランスの歌姫ポリヌ・ヴィアルド
3. 学会等名 第36回シャンソン研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 村田京子
2. 発表標題 ゾラの『ボヌール・デ・ダム百貨店』における「女性の搾取」 「頭のないマネキン人形」
3. 学会等名 国際女性デー2023記念シンポジウム「女性と表象：服飾、モード、ジェンダー」（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 村田京子
2. 発表標題 19世紀フランス文学におけるフェミサイドのテーマ バルザック、サンド、ゾラ
3. 学会等名 第116回関西バルザック研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 村田京子
2. 発表標題 『人間喜劇』における「モードの女王」 モーフリニューズ公爵夫人（カディニャン公妃）
3. 学会等名 関西バルザック研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 村田京子
2. 発表標題 スタール夫人とフランス革命 『デルフィーヌ』 『コリンヌ』
3. 学会等名 東京日仏会館主催「文学作品に現れたフランス革命」(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kyoko Murata
2. 発表標題 Comment Delacroix a “collabore” a la creation de Balzac
3. 学会等名 Colloque international : Balzac en collaboration (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 村田京子
2. 発表標題 19世紀フランス文学とジェンダー
3. 学会等名 京都大学フランス語学・フランス文学研究会総会(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 村田京子
2. 発表標題 バルザックとドラクロワ
3. 学会等名 第108回関西バルザック研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 村田京子
2. 発表標題 服装を通して読み解く『アンディヤナ』の物語
3. 学会等名 2020年度日本ジョルジュ・サンド学会 秋季研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 村田京子
2. 発表標題 服装を通して読み解くバルザックの『幻滅』
3. 学会等名 第110回関西バルザック研究会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 三浦 信孝、村田 京子、小野 潮、柏木 隆雄、西永 良成、エリック・アヴォカ、関谷 一彦	4. 発行年 2022年
2. 出版社 白水社	5. 総ページ数 244
3. 書名 作家たちのフランス革命	

1. 著者名 Brigitte Diaz, Pascale Auraix-Jonchiere, Catherine Masson, Kyoko Murata, etc.	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Classiques Garnier	5. 総ページ数 510
3. 書名 George Sand et le monde des objets	

1. 著者名 村田京子	4. 発行年 2023年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 368
3. 書名 モードで読み解くフランス文学	

1. 著者名 吉田正明、本間千尋、村田京子、中村啓佑、金山富美、三木原浩史、岡本夢子、樋口騰迪、高岡優希、中 祢勝美、戸板律子	4. 発行年 2024年
2. 出版社 大阪大学出版会	5. 総ページ数 332
3. 書名 シャンソン・フランセーズの諸相と魅力	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>村田京子のホームページ http://sand200balzac.sakura.ne.jp/</p>

6. 研究組織			
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)		備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

<p>国際研究集会 国際女性デー記念シンポジウム「女性と表象：服飾、モード、ジェンダー」</p>	<p>開催年 2023年～2023年</p>
---	-------------------------------------

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------